

## <新型コロナウイルス感染症による診療停止について②>

2022年7月中旬以降、久米島だけではなく、沖縄県、そして日本全国において、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮いました。久米島においては、感染者数増加により、島民生活だけではなく、そのインフラである当院も最小限の機能を保つことに注力しなければならぬ状況になりました。

島民のみなさまからは、「病院に行ったけども中に入らなかった、体が心配で聴診器を当てて欲しかった、予定の検査ができなかった、電話が来なくて心配になった」等の直接の声も多く頂きました。その一方で、「頑張ってください、体に気をつけて下さい、しっかりと休んでください、私たちもコロナにかからないように頑張ります」等、自分たちが大変な状況にも関わらず、私たち医療者に励ましの声をかけて下さった方の声も数多く頂きました。このような声を頂く中、私たちが、この診療停止中、私たち医療者が“何をしていたか”をお伝えします。

みなさまの中には、“休みだから暇だったはず？”と考える方もいたかもしれません。町から連絡をさせていただいていたように、2022年7月26日から行われた診療停止中は、緊急性のない症状の方、無症状で各種検査希望・相談の方などは、国・県・町の方針と協議に従い、病院内で対応を行わずに電話等の対応を行なっていました。その背景には、感染者数の急増もさることながら、病気を持っている方が集まる病院に、微熱・体調不良などの重要事項を申告しないで入る方、濃厚接触者にも関わらず入ろうとする方、病院機能を損なう行為（暴

言等）をする方、など、久米島全体で行われている感染対応と医療機能の維持に協力を頂けない極々一部の方の影響があったことも事実です。

そのため、病院内では、症状が強く直ちに医療行為が必要な方、重症度の高い新型コロナウイルス感染者の方を重点的に対応していました。特に、自立した生活ができない高齢な方、家族がいない社会的に孤立した方、重症化因子を多く持つ方、通院中の乳幼児の方などに関しては、生命と生活困難の危険があり当院の医療資源を集中させていました。その中には、症状の重い患者、妊産婦の自衛隊ヘリ搬送になった方、コロナ感染した血液透析患者等、みなさまの目には直接触れることがない対応があります。

病院外では、自宅療養支援、コロナ罹患者の訪問医療、本島への搬送支援、老人ホームなどの介護施設への感染対策指導と対応などを行い、昼夜問わず、1日200件以上の電話対応を24時間行っていました。島内に療養施設がなく、自主的に行う感染対策が整っていない島内事業者については病院が役割を超えて対応したことも多々あります。

どのような声であれ、私たちにとっては貴重なみなさまの声であり、みなさまのお気持ちと受け取っています。今後も予断を許さない状況ではありますが、協生の心（ゆいまーる）と共に、迅速な実行動を心がけて参ります。どうぞこれからも、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

## 「子どもと本」

読書の秋ということで、  
今回は子どもと本についてです。

公立久米島病院  
小児科 渡邊 幸

### 1) 赤ちゃん和本

「絵本を読むのは何歳から？」と聞かれることがありますが、いつからでも大丈夫です。親が絵本を読む時の「優しい声」や「リズム」は、胎児の脳にも良い影響があると言われています。赤ちゃんを膝に抱っこしながら絵本を読むとき、その居心地の良さがお互いの情緒を安定させます。この時期は「子どもに聞かせよう」と必死にならず、大人が読んで「心地いいな」と思う本を読みみたいときに読みましょう。小さい子は本をめくりたがるので、仰向けに寝転がって両手を伸ばして本を持つと、邪魔されずに読めます。

<おすすめの一冊：「だんだんももんちゃん」>



### 2) 幼児と本

この時期は、育児家事に追われて1日があっという間に終わってしまう時期。子どもは親との時間を確保するために「本読んで！」と無限に求めます。「寝る前の絵本は〇冊」と決めておいたり、絵本を「切り替えスイッチ」として使うのはおすすめです。喧嘩やイライラで空気が澁んでいる時に、「絵本でも読むか」とおもむろに親が絵本を読み出すと、子供もつい聞き入ってしまい、気づけばその場の空気が変わります。親子でつい笑ってしまうような一冊があると良いですね。

<おすすめの一冊：さつまのおいも>



### 3) 小学生と本

自分の周囲で起こっていることに興味を持ち始め、物語を通して色々な世界に触れることでその芽がぐんぐん伸びる時期です。自分で読んでも、人に読んでもらった方が世界に入りやすい事も多いので、求められる限り読んであげましょう。

高学年になると哲学者のように物思いに耽ったり、頭の中に小宇宙が広がっていきます。ワクワクするような冒険本や、考えさせられるような本との出会いが、心の道標となったりもします。

<おすすめの一冊：それいけ！ズッコケ三人組>

大人自身が本を楽しんでいる姿は、子どもの読書習慣に影響するそうです。久米島では「ほんの杜」図書室や、「風の帰る森」図書コーナーで、たくさんの素敵な本と出会うことができます。ぜひ、お気に入りの一冊を探してみてください！